

夫婦二人三脚で 栗栽培

よね みつひろし れい こ
米満博・禮子夫婦 (平田上) 一農家

朝早くから 向かうは栗畑

朝6時に起き、朝食を済ませると早々に栗畑へ向かうという米満博さんは、今年で80歳です。

「私は5時に起きます。朝食を作って、洗濯物を干して掃除して、お父さんより朝は私の方が忙しか」と隣で笑う妻の禮子さんは78歳。博さんは高校を卒業すると

就農。その後、運送会社で働きながら農業も続けてきました。定年後は、農業一本。博さん

を支えてきた禮子さんも、子育ての傍ら家事と農作業に忙しい時代を乗り越えてきました。そんな夫婦二人三脚のがまだしぶりは、こうして今も健在です。

この日2人は、栗の皮むき作業に汗を流していました。毎年、約3トンの栗を出荷するそうです。

夫婦で楽しむ グラウンドゴルフ

米満さんたちが最も忙しいのが秋の栗の収穫期。今年は栗の成長が例年より早いらしく、残暑厳しい中での作業になります。育てている栗の品種は「丹沢」と「筑波」の2種類です。いずれも粒が大きく、主に関西方面に出荷されているそうです。

収穫が終わるとすぐに栗の木への肥料やり。さらに3ヘクタールある田んぼの米の収穫も待つており、冬は栗の木の剪定など、一年を通して休む間もない忙しさです。

そんな中であって、2人は週に3回はグラウンドゴルフに出かけるそうです。また博さんは月に一度のゴルフが何よりの楽しみで、自宅の敷地内にはお手製の練習場があります。ゴルフのスコアは80前後と聞いて驚きます。

禮子さんの手料理で楽しむ、毎晩の晩酌が元気の秘訣という博さん。これからもうぞお元気で、ほういっぴや、がまだしてください。



1 収穫した栗の皮をむく作業をしている米満博さん

2 早くに出荷されるのが「丹沢」という品種の栗

3 栗の皮むきをする米満さん夫婦。息もぴったり合っ